

令和 5 年 6 月 18 日現在

機関番号：12301

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2022

課題番号：16K11993

研究課題名（和文）チーム医療における高度実践看護師が担う看護専門外来システムの開発に関する研究

研究課題名（英文）Research on the development of an outpatient nursing system for highly practiced nurses in team medical care

研究代表者

岩永 喜久子（IWANAGA, Kikuko）

群馬大学・その他部局等・名誉教授

研究者番号：40346937

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,600,000円

研究成果の概要（和文）：わが国には高度な知識や技術を備えた専門看護師がいる。本研究の目的はチーム医療の一環として専門看護師が開設する看護専門外来の実践状況とその評価、医療への貢献について明らかにするとともに、システム化に向けた示唆を得ることである。

看護専門外来は38都道府県の148施設で開設されており、専門看護師は42施設に在籍しがん看護（37施設）、慢性疾患看護（10施設）のような7分野において患者に対応していた。

専門看護師と患者への面接調査や連携医師へのヒヤリングは、新型コロナウイルス感染症のまん延の影響を受けたことにより調査継続を断念することとした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、専門看護師の高度な知識と技術を活用して医師と連携した看護専門外来システムを構築することで、チーム医療の発展と看護の役割拡大に寄与できる可能性があることに意義がある。これまで本システムを開発した成果と汎用性があることを国内で周知してきたためか、全国的にも148施設と開設する医療機関が増えてきた。専門看護師が開設する施設は42と少ないが、看護の専門分野を活かして複雑化したがんや慢性疾患の患者・家族への支援が行われていた。

本研究ではチーム医療において、外来診療部門と連携した看護専門外来の実践とサービスを受ける患者側からの評価をするとともに、システムの構築化に研究的意義がある。

研究成果の概要（英文）：In Japan, there are certified nurse specialist with advanced knowledge and skills. The purpose of this study is to clarify the practice status of nursing specialist outpatient clinics established by certified nurse specialist as part of team medical care, their evaluation, and their contributions to medical care, as well as to obtain suggestions for systematization.

Nursing specialist outpatient clinics are established at 148 facilities in 38 prefectures, and certified nurse specialist were enrolled in 42 facilities and provide care to patients in 7 fields, such as cancer nursing (37 facilities) and chronic disease nursing (10 facilities). Due to the spread of the coronavirus disease(COVID-19), interviews with certified nurse specialist and patients and hearing with cooperating doctors were abandoned.

研究分野：医歯薬学

キーワード：看護専門外来 専門看護師 高度実践看護師 チーム医療 システム ナースプラクティショナー 看護外来

1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究は、看護の卓越した専門性を集積させる看護専門外来システムを体系化することでチーム医療発展に寄与し、さらに社会の要請に応えることができ、新たな看護の役割拡大の方略としての提案である。わが国の医療環境は、医師不足や偏在化が慢性化し、超高齢社会と在院日数の短縮化により在宅医療が推進されている(内閣府;2011)。一方、在宅医療を支える訪問看護も急激な社会の変化への対応に追い付かず、地域では高齢者、認知症、慢性疾患などの複雑化した多様な支援を必要とする人々が多く暮らしている。地域と診療の場をつなぐのが医療機関の外来診療部門である。現行の看護の役割としての診療補助中心の外来看護では、このような患者への対応が困難である。そこで、看護の専門性を活かしてじっくりと患者や家族の問題に向き合える看護専門外来システムを構築することで、チーム医療への貢献と看護の新たな役割拡大へつながると考えた。

(2) 米国においては、専門性の高い能力をもつ高度実践看護師としてNP(Nurse Practitioner)制度(American Association of Nurse Practitioners;2015,森田;2009)があり、医学モデルに貢献している。NPは修士課程(2015年からは博士課程)で看護学を学び優れた知識と判断力・実践力を備えた看護師であり、全米では20分野に24,000人のNPが就業し(1988年調査)、博士号をもつNPも増加している(看護問題学習会編;2009)。NPは独自の診療所を持ち看護診断をして特定の医行為や処方を行い、診療費を払えない患者や過疎地域の医療にも貢献している(看護問題学習会編;2009)。申請者は複数回訪米しNP活動の様子を視察し同様の様子を確認した。

(3) わが国における看護教育は大学化と大学院化が進んでおり、大学院修士課程の専門看護師教育課程が制度化されて17年が経過した。専門看護分野は、がん看護、精神看護、老人看護など11分野があり、1466名の専門看護師(CNS;Certified Nurse Specialist)が登録され(日本看護協会;2015)各分野で卓越した能力により優れた看護が展開されている。しかしながら、その存在や役割について医療職間でも周知されているとは限らない。日本看護系大学協議会は、2015年に高度実践看護師教育課程と名称を変更しナースプラクティショナー(NP)の養成も加えられた。これまでの専門看護師教育課程の学習に、フィジカルアセスメントや臨床病態学、臨床薬理学を追加し特定の医行為役割も可能とするものである。他方、医師の不足や過重労働の観点などから日本外科学会を中心としてチーム医療体制確立が検討され、2015年厚生労働省は研修による特定の医行為が可能となる特定看護師の養成教育を制度化した。同様に、日本NP教育大学院協議会は大学院において診療看護師(NP)養成を開始し資格認定が行われている。これら以外に、専門性が高い看護師として研修を受けた21分野の認定看護師(日本看護協会)学会等で資格を認定された糖尿病療養指導士(日本糖尿病療養指導士認定機構)やフットケア指導士(日本フットケア・足病医学会)などがある。

(4) 申請者らは、2003年よりA大学病院をモデルとした専門看護師達の実践力を活用して診療部門と連携し、看護部と大学教育機関の教育研究者が協働して運営する看護専門外来を開設した(小坂橋;2015)。このシステムを委員会運営により構築化とシステム化を図った(岩永;2008)。看護専門外来の分野は、がん看護、糖尿病療養相談、リンパ浮腫外来などの9分野であり院内外へ周知するとともに、汎用性もアピールした。課題はシステム継続のために必要な人材育成と診療費としての加算問題であった。全国的にも開設される看護専門外来が少しずつ増えてきたが、専門看護師の担当は少なく認定看護師や学会資格認定者らによって行われている。そこで、さらにチーム医療への推進役としての一翼を担うためにも、本看護専門外来システムを体系化して開設できれば、医療を取り巻く諸所の課題に対応でき、看護の役割拡大へつながるのではないかと考え本研究への着想に至った。

2. 研究の目的

本研究の目的は、チーム医療の一環として専門看護師(高度実践看護師)が開設する看護専門外来の実践状況とアウトカム評価、ならびにその運用がもたらす医療への貢献について明らかにするとともに、看護専門外来のシステム化に向けた示唆を得ることである。

(1) 国内外の文献検討による専門看護師(高度実践看護師)が開設する看護専門外来の概念と有識者によるヒヤリングを行い、看護専門外来が医療へ貢献できる可能性と課題を明らかにする。

(2) 10施設程度の看護専門外来の専門看護師と患者を対象とした面接調査を行い、それぞれの

立場からアウトカムを明らかにする。また、連携医師への聞き取りにより看護専門外来のシステム化への示唆を得る。

(3) 看護専門外来の評価指標案の質問項目を検討し、評価測定尺度としての洗練化を図り測定尺度を開発する。全国調査により、専門看護師（高度実践看護師）による看護専門外来の実践状況と評価尺度を使用したアウトカムを明らかにする。

(4) 看護専門外来のアウトカム評価を踏まえ、専門看護師（高度実践看護師）による看護専門外来の医療への貢献について考察し、看護専門外来のシステム化に向けた示唆を明らかにする。

3. 研究の方法

本研究は次の4段階で行う。

- 1 段階：国内外の文献検討による看護専門外来に関する概念分析と、国内外有識者へのヒヤリングのための事前準備、面接調査で対象とする医療機関の洗い出しを行う。
- 2 段階：有識者へのヒヤリングを行う。
- 3 段階：全国の10施設程度の看護専門外来担当専門看護師（高度実践看護師）と受診患者への面接調査を行う。また、看護専門外来と連携している医師への聞き取りを行う。
- 4 段階：看護専門外来のアウトカム評価指標を完成させ、全国の専門看護師が開設する看護専門外来のアウトカムに関する評価を行う。

(1) 国内文献は少ないことから、専門看護師以外の認定看護師や学会認定療法士などが開設運営する看護外来関連の文献も含めて収集し、看護師や助産師などが実践する看護の専門外来についてもシステムティックに文献検討を行う。国外は主に、米国のナースプラクティショナー（高度実践看護師）が開設するクリニックの実践評価に関する報告を中心に文献を検索するとともに、米国以外の報告も含めて検索し国外における看護職が実践する看護の専門外来を確認し看護専門外来に関する概念を見出す。

(2) 国内の有識者は、厚生労働省で看護師の特定医行為に関わる担当者1名、日本外科学会の代表者もしくは特定看護師を導入するために文献等で公表されている外科医師1名を予定している。チーム医療として医行為を看護師に実施させることから、医師サイドからの看護専門外来開設運営についての意見や政策側からの意見を聞き、医師との連携した看護専門外来の有用性について情報を収集する。そのためのヒヤリング内容を精選する。

国外の有識者は Phyllis Zimmer 氏を予定している。氏とは自身も面識があり高度実践看護師でありナースプラクティショナーとして開業しており、全米ナースプラクティショナー協会の代表者（当時）でもある。ワシントン大学のナースプラクティショナー教育課程で高度実践看護師の人材育成も行っている。同大学を訪れ同氏からナースプラクティショナー教育に関するヒヤリングを行ったことから選定した。ちなみに米国では専門看護師は少なくナースプラクティショナーが医師と連携して特定の医行為を行っている。ヒヤリングのための調整をして、高度実践看護師教育と実際の実践から示唆を得るためのヒヤリング内容を精選する。

(3) インターネットを使用して一定の期間に全国の医療施設のホームページを閲覧し、看護専門外来において専門看護師が患者を担当している施設を洗い出す。洗い出した施設から、専門看護師の11分野（平成28年度時点；がん看護、精神看護、地域看護、老人看護、小児看護、母性看護、慢性疾患看護、急性・重傷患者看護、感染症看護、家族支援、在宅看護）に対応する施設を候補予定施設として選び出す。なお、登録者は令和28年度時点でがん看護581名が最も多く在宅看護が22名と最も少ない。上記の方法で洗い出した施設から脱落を考え30施設程度を選定する。可能な限り専門分野の11分野に合致する看護専門外来を開設している施設から優先的に10施設程度を選ぶ。担当している専門看護師と受診している患者それぞれ10名程度の面接調査と、連携医師への聞き取りを行う。面接調査と聞き取りのための内容を検討する。

(4) 面接調査の分析結果や過去に行った質問紙調査なども踏まえて質問紙調査票の原案を作成する。作成した質問紙調査票原案を用いて先に洗い出した全施設の看護専門外来を担当する看護師を対象に調査を行い、看護専門外来のアウトカム評価について明らかにする。

4. 研究成果

(1) 全国の看護専門外来開設状況を知るためにキーワード「看護専門外来」「看護外来」とし、別々にWebサイトを用いて検索（2020年5月23日）した。ヒットしたのは38都道府県165施設でありそれぞれのホームページを閲覧し該当しなかった17施設を除外した。看護専門外来または看護外来を開設していたのは148施設であり、専門看護師が担当していた施設は42施設で他は認定看護師や学会資格認定の看護師等などであった。専門看護師の分野はがん看護37施設

設、慢性疾患看護 10 施設、小児看護 3 施設、母性看護と精神看護がそれぞれ 2 施設、老人看護と急性・重傷患者看護がそれぞれ 1 施設であった。1 施設で複数の専門看護師が関わっている看護専門外来もあった（表 1）。また、開設されていた看護専門分野はがん看護外来からリン浮腫外来のように多岐にわたっていた（表 2）。

(2) 日本看護協会の 2021 年度病院外来看護についての、専門看護師・認定看護師・特定行為研修修了者 2,455 名の実態調査によれば、外来患者への対応は専門看護師資格取得者が 72.1%、認定看護師資格取得者が 76.8%であった（日本看護協会；2022）。また、専門看護師資格取得者が 1 人以上いる施設は 18.9%、認定看護師資格取得者は 65.0%であり、専門看護師は少ない状況であった（日本看護協会；2022）。がん看護外来では [患者・家族の思いの整理支援][課題解決の他部署との連携][療養生活の支援][在宅療養の移行支援][患者・家族の今後の経過を予測した働きかけ][支援に必要な情報収集]などの看護実践が報告されていた（飯田・峯川；2022）。

複数の国外の文献で検討した。米国では、NP3,817 名を対象とした報告では 12 の専門分野の中で家族看護が 55.1%と最も多くを占め、修士課程修了者が 79.7%、博士課程修了者が 17.8%であり、外来勤務者は 16.1%であった（Kleinpell, et al. 2018）。オランダでは慢性腎不全患者に対する NP の支援はランダム化比較試験結果により良好であったこと（Peeters M, et al. 2014）。カナダでの腫瘍患者への NP のケアの有用性（Stahike, S, et, al. 2017）などが報告され、専門的な知識や技術をもつ看護師の能力が評価された。

(3) 国内外の有識者への聞き取りによる情報収集では新型コロナウイルス感染症の世界的な蔓延が生じ、感染予防のため国内外への移動も不可となり実施できなかった。リモートによる情報収集の方法もあったが、医療崩壊もきたした現状から調査を控えた。同感染症発生前の国際学術集会等への参加では、米国・英国など複数のナースプラクティショナーや教育研究者からの情報収集により、看護専門外来のようなシステムはないとのことであった。

(4) 看護専門外来を開設している 10 施設程度を選定し担当している専門看護師、受診している患者への面接調査と、連携医師への聞き取りを開始した。しかし、対象から同意を得ることに困難を要し、研究計画を変更しながら再度調査を試みたが難しかった。その後すぐ、先に述べたように新型コロナウイルス感染症の影響を受けた。本研究では、対象としている施設は多くが地域の医療を担っている機関が多かったため、医療崩壊の状況もあったことから医療機関への調査を断念した。そのため、研究の成果が得られず、調査結果を基にする予定であった看護専門外来のアウトカム評価指標の作成ならびに、評価指標を用いた看護専門外来のアウトカム評価の調査も実施することができなかった。

<引用文献>

飯田由紀子、峯川美弥子、鈴木香緒理、日本のがん看護外来の看護実践の実態、日本看護学会誌、42 巻、2022、706-716
 岩永喜久子、前田三枝子、鈴木伸世、外来看護のパラダイムシフトと看護に期待される役割、看護技術、54 巻 (5)、5-15
 Kleinpell R, Michlle Lc, DL. American Association of Nurse Practitioners National Nurse Practitioner sample survey: Update on acute care nurse practitioner practice. Journal of the American Association of Nurse Practitioners. 2018;30(3), 140-149
 小坂橋喜久代、臨床看護にリラクゼーション法を取り入れることを目指して-看護介入として

表 1 看護専門外来担当者の資格認定状況と開設分野

n = 148			
資格認定者の在籍	施設数	資格認定分野	施設数
専門看護師	42	がん看護	37
		慢性疾患看護	10
		小児看護	3
		母性看護	2
		精神看護	2
		老人看護	1
		急性・重傷患者看護	1
認定看護師・学会認定者等	106	糖尿病看護認定看護師	-
		皮膚・排泄ケア認定看護師	
		慢性心不全看護	
		糖尿病療養指導士	
		リンパ浮腫療法士	
		がん性疼痛認定	
		緩和ケア認定 等	

表 2 看護専門外来に開設されていた分野の例

開設分野の例	
がん看護外来	腹膜透析ケア外来
緩和ケア外来	遺伝カウンセリング
看護ケア外来	周産期ケア外来
脳血管疾患・摂食嚥下外来	母乳外来
在宅酸素療法看護外来	リウマチ看護外来
心不全・VAD 看護外来	フットケア外来
慢性腎臓病看護外来	リンパ浮腫外来 等

のリラクゼーション法の研究・教育・実践、THE KITAKANTO MEDICAL JOURNAL、65 巻、2015、83-89

大学院教育課程認定：日本 NP 教育大学院協議会、<https://www.jonpf.jp/graduaeschool/certification.html> (検索日：2023 年 6 月 10 日)

日本看護協会調査研究 2021 年病院看護・外来看護実態調査報告書、日本看護協会、2022、<https://www.nurse.or.jp/nursing/home/publication/pdf/research/97.pdf> (検索日：2023 年 6 月 10 日)

Peeters M, J. Arian D, Jan A et al. Nurse Practitioner Care Improves Renal Outcome in Patients with CKD. *Journal of the American Society of Nephrology*. 2014; 25:390-398

Stahike S, Rawson K, Pituskin E. Patient Perspectives on Nurse Practitioner Care in Oncology in Canada. *Journal of Nursing Scholarship* 2017; 2017:487-494

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 岩永喜久子	4. 巻 21
2. 論文標題 チーム医療における看護専門外来の開発に関する研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 58, 61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 白井豊子、岩永喜久子
2. 発表標題 看護師の専門職自律性と社会人基礎力との関係
3. 学会等名 第41回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 猪瀬紗都子、岩永喜久子
2. 発表標題 産科混合病棟の看護師長が捉える病棟運営上の課題
3. 学会等名 第40回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 新井啓子、岩永喜久子
2. 発表標題 院内異動した看護師長が捉える病棟の組織文化
3. 学会等名 第40回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岩永喜久子
2. 発表標題 看護専門外来サービス提供者と受領者のサービスに関する意見の分析
3. 学会等名 第37回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kikuko Iwanaga
2. 発表標題 Nursing practice transformation model-field of practice and outcomes of a nursing specialized outpatient clinic.
3. 学会等名 2nd World Congress on Nursing and Nurse Education,USA (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kikuko Iwanaga
2. 発表標題 Nursing change model in Japan:Nursing specialized outpatient clinic opened and operated by nurse
3. 学会等名 Nursing Meeting 2017,Melbourne (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大野恭平、岩永喜久子、中村美香
2. 発表標題 本邦における制度化前の特定看護師に関する文献検討
3. 学会等名 日本看護研究学会第42回学術集会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------